

未来づくり10年プラン

住み終え支援とは 重点プロジェクトにも異論

質疑

住み終え支援

【杉谷議員】

「住み終え支援」とは人生の終末のための支援かとイメージする人もいるのでは。

【企画情報課長】

年を重ねてからも町内で楽しく暮らすことができて、希望を感じて、地域に長く住み続ける人を増やすことを意味する。

【大森議員】

住民・企業・行政の連携促進は住み終え支援とはどういった関係か。

【企画情報課長】

施策というより手法。住民・企業・行政が地域内で連携することで、地域の暮らしやすさを向上していく。

住民参画

【加藤議員】

今回の基本構想は、概ね100人以上の町民が参画されてでき上がったものだと思う。

【町長】

その基本構想がめざす10年と、町長がめざす10年はしっかりと重なっているか。来年度からスタートするこの総合計画のなかに、それぞれの思いがちりばめられ、またそうした方針として今後も展開されていく。

重点事業

【近藤議員】

重点プロジェクトに観光や農業、健康づくりのことが書かれていない。

【町長】

なぜ、これらの事業を「ぜひ重点プロジェクトで位置づけてくれ」と策定委員や未来会議に提案しなかったのか。幅広い年代の人々が関わってでき上がった計画なので私の思いはあえて避けてきた。総合計画は私の具体的な施策ではない。

町長の責任

【米本議員】

総合計画が「私の具策ではない」など言うべきではない。町長が提出するものは、自信をもって「自分が作りました」ということが必要だ。

【町長】

責任逃れのような表現をすることは、総合計画が本当にこれでいいか、疑わざるをえない。責任をもって提案している。責任逃れと言う表現を使われて、私の答弁で十分伝えきれなかったことがあったと思う。

討論

【反対：野口昌議員】

理由は「住み終え支援」という表現だ。我々はもう捨てられるのではないかと感じた。

自分たちでまちを作るという気持ちで伝わってくるような文章だが「支援」という言葉に引掛かる。変えてほしい。

【賛成：大杖議員】

この基本構想は、海士町などのまちづくりで成功した会社の手法と万人以上が3年をかけて議論を重ね、これまでにない表現でまとめられた。住民の意見と行政の知恵が結集されたものである。

否決